



むつみ

第42号 平成8年1月16日



相馬市岩子

福島県土地改良団体職員連絡協議会

目 次

九、今、二十年を回顧して 塩川西部土地改良区

渡辺秀雄

一、新年の御挨拶 福島県土地改良団体職員連絡協議会

佐藤亨

二、新しい年に願うこと 安積疎水土地改良区

吉田栄一

三、広島に想いをよせて 月形中野土地改良区

河内英治

四、九十九パーセント 河東町土地改良区

土地連

五、防災ダム管理 夏井土地改良区

河内英治

六、十年間を振り返って 柳津町土地改良区

河内英治

七、思いつくがままに 大熊町土地改良区

河内英治

八、思い出をつくるために 大玉土地改良区

河内英治

渡辺浩彰

佐藤亨

吉田栄一

河内英治

一〇、二 十 年

一一、異常渴水について

一二、自 然

一三、編 集 子

新年の御挨拶

福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 森 久

て、順応と警戒の元年である。日本の農業経済が、ねずみ算的に急激に好転するとは考えられないが、土地改良事業の的確な選択と、農家の方々の話し相手となることに努め、少し

新年おめでとうございます。会員の皆様には、輝かしい新春を迎える益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年の七月には、相馬市のはやしや旅館において、来賓多数のご出席のもと第十九回総会及び業務研修会を開催し、永年勤続会員を表彰できましたことは、誠に喜ばしいことであり、表彰されました三十二名の皆様には、永年の御労苦に対し改めて敬意を表します。

さて、昨年は余りにも慌ただしい年であったため、今年は平穏な新春を迎えた感を強くいたしましたが政局は、一月五日の村山首相の突然の退陣で揺れ動く年の始めとなりました。

『うららかな元旦』の青空を見て、日本の将来も明るい日差しが見えてきたと思い決意した。これは首相退陣の弁であるが、ほぼ退陣を決意した心で見る空は、きれいに見えたのかもしれない。しかし本当に日本の将来に明るい日差しが

見えてきたのだろうか。日本の農業を考えるとそれは思えない。国際協調の中で益々混迷の道を辿るような気がする。日本の米は、昨年十一月一日からの新食糧法の施行でいわば政府あるいは政治から離れたと言つても過言ではない。つまり、政府の管轄から計画外流通米中心の消費者型に変わったと言つてもよい。従つて農家もその経営に付加価値をみつけ、自由競争に乗り会社を經營する感覚で取り組まなければならない厳しい時代に入った。米も、良いものを安くの商業感覚が求められる時代になつたと言える。そのような流れの中で我々農業団体も、特徴と個性の農業を育てるために力を尽くすことが肝要になってきた。同じ悩みを持つ土地改良団体の職員同志が、互いに地域の実情を語り合いながら、日本の農業に本当の青空が見えるよう努力しなければならないと思う。子年は『順応と警戒の年』と言われている。今年は我が農業にとつ

あけましておめでとうございます。
会員各位の御発展と御健勝をお祈りいたします。

顧問	佐藤 芳久	土地連専務理事	幹事	棚木 均	会津北部
会長	森 久	安 達 疏 水	"	小林 甫	昭 和 村
副会長	阿部 譲郎	門 田 壇	"	金本久美子	猪苗代町
"	松本 充弘	小 高 町	"	柴田 敬子	只見町
"	河内 英治	土 地 連	"	小野 善男	双葉町
幹事	氏家悠佳子	福 島 市	"	柳内喜久子	小川町
"	伊東 喜一	安 積 疏 水	"	尾形 次男	土地連
"	瀬谷 輝勝	母 畑 地 区	"	"	"
渡辺 秀雄	鈴木 武七	棚 倉 町	佐藤 紘一	"	
"	"	監査員	佐藤 正雄	会津高田町	
塙川西部	"	小宅 義孝	部 忠弘	安積疏水	
				四時川沿岸	

平成七年度総会

本協議会の平成七年度総会は去る七月十二日十三時三十分より相馬市岩子の旅館「はやしや」において会員及び多数の来賓が出席して開催されれた。

総会は、千葉事務局長（県土地連総務部次長）の司会で森会長挨拶の後、県土地連の佐藤専務理事、相双農地事務所の久保内所長からそれぞれ祝辞を頂戴した。

会長挨拶

会長 森

久

本日、平成七年度総会、研修会を開催しましたところ、ご来賓の皆様には御多忙のところ、ご臨席をいただき厚く御礼を申し上げます。

また、会員の皆さんにも大変お忙しいところ、ご出席をいただきありがとうございました。

昨年の総会におきまして会長に選任されました白沢村安達疏水土地改良区の森でございます、よろしくお願い致します。

最近の日本の農業をとりまく状況は、一昨年の例外、昨年の水不足という自然現象に加え、国際協調の波をともに受け、大変厳しいものがあります。私共はこの難関を乗り越えるために互いに英知を出し合い情報の交換と研究を重ねて行かなければならぬと考えております。

そのような意味からも、本日の研修会には、土地連の佐藤専務さんを始めとしまして講演がございますので、この総会、研修会が実りある有意義なものとなりますようお願いする次第です。

△永年勤続者
☆十年勤続☆

所属団体名	氏名
安積疏水土地改良区	奥治 立弥
母畠地区土地改良区	山田 里美
猪苗代町土地改良区	鈴木 真秀
柳津町土地改良区	亀井 祐子
楓葉町土地改良区	小島 貞彦
小川町土地改良区	高木 保之
西郷村土地改良区	遠藤ミヤ子
福島県土地改良事業団体連合会	熊田 恵子
以上 10名	谷 孝樹
雄国山麓土地改良区	神田 博美
猪苗代町土地改良区	東條 静一
表郷村土地改良区	佐藤 亨
高郷村土地改良区	滝田 国男
鶴沼防災ダム連合協議会	貝沼さと子
塩川西部土地改良区	星 勝俊
小川町土地改良区	渡辺 秀雄
三和土地改良区	柳内喜久子
福島県土地改良事業団体連合会	大島 初子
以上 10名	斎藤 洋子
以上 9名	佐藤 秀明
以上 9名	山田 政昭

△三十年勤続☆

所属団体名	氏名
伊達西根堰土地改良区	吉田 実一
安積疏水土地改良区	須藤 徳子
会津北部土地改良区	高郷村 土地改良区
阿武隈上流土地改良区	山口 武彦
福島県土地改良事業団体連合会	本田 孝志
以上 9名	景井 仁志
以上 9名	佐藤 秀明
以上 9名	山田 政昭

次いで福島県土地改良事業団体連合会佐藤専務理事より祝辞の後、来賓の紹介があり、続いて祝電が披露された。

○相双農地事務所長

久保内 俊応 氏

○相馬北部用水改良事務所長

三瓶 邦雄 氏

祝電

参議院議員 太田 豊秋

統いて議長選出に移り相馬郡双葉町双葉町土地改良区小野善男氏を選出し、挨拶の後、平成六年度事業報告及び収支決算が一括議題として事務局の説明、部監査員の監査結果報告後、原案どおり承認された。

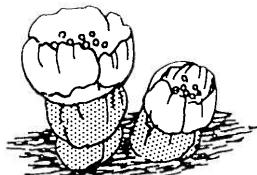
次に平成七年度補正予算、平成八年度事業計画収支予算案、並びに会費、協賛金の額及び徴収方法について

て提案、事務局の説明後原案どおり決定され閉会の挨拶の後、総会の全日程を終了した。

職 員 業 務 研 修 会

本協議会主催の研修会は、総会に引き続き開催された。

内容としては、「ガット・ウルグアイ・ラウンドについて」を土地連佐藤専務理事に「原町市における農業の活性化と担い手対策について」を原町市経済部農政課長補佐渡部定幸氏に、また、小高町土地改良区事務局長松本光弘氏に「小高町の土地改良について」のそれぞれの題について講演をお願いしました。



新しい年に願うこと

月形中野土地改良区 古川 武

新年明けましておめでとうございます。

先ず年頭に願うことは、今年も農作物が豊作であることを心から祈念するものであります。

昨年は、七月の前半迄続いた悪天候に悩まされ、特に水稻の生育は著しく遅れをきたし、作柄が大変心配されました。その後順調な天候の回復に伴いどうにか当地区においても、平年作に近い作柄にまで漕ぎつけることが出来得ましたことは農家にとってどんなにか喜びとするところであります。これ一重に農家の方々の肥培管理、特に病害虫の発生防除に万全を期した要因であつたと云つて過言ではないかと信ずるものであります。

何んといつても私共土地改良事業に携わる者の一人として、いつも脳裏を離れない問題の一つに借入償還金の返済のことであります。農作物特に水稻の作柄の良し悪しには償還賦課金の納付期限内の納入率に大きく影響を及ぼしてくる訳であります。

一方作柄が良いといって両手を上げて喜んでばかりはいられない。米の一部輸入自由化により、国外からの輸入米の量と合わせて、余剰米が益々多くなり、これと比例して生産調整が更に上積みされることになる。平成五年に政府はウルグアイランド農業合意の実施に伴う農業施策に関する基本方針に基づき、「ウルグアイランド農業合意関連大綱」を決定いたしました。その内容によると、先ず大綱の第一番目に「対策の基本的な考え方」(二)項「国土資源の有効

利用により可能な限り国内供給力を確保すること」以上のような一節があります。このことからいたしましても、せめて土地改良事業実施地区の中で事業費の受益者負担分として借入償還金の返済をいたしておる地区については、可能な限り生産調整の率合を緩和する施策を講じていた

年明け早々農林公庫への返済期限も迫って参り役職員一同連日連夜未収金の徴収に奔走しておる次第であります。皆さんのがれ等の努力によつ

送付いたしておりますけれど未納者それに納期限内に納入出来ない理由もあり関係者一同対応に苦慮いたしておるところであります。踏まえて未納者に対して督促状発行それに納期限内に納入出来ない理由もあり関係者一同対応に苦慮いたしておるところであります。

年明け早々農林公庫への返済期限も迫って参り役職員一同連日連夜未収金の徴収に奔走しておる次第であります。皆さんのがれ等の努力によつ

広島に想いをよせて

河東町土地改良区 大竹 きよ子

あけましておめでとうございまます。

今年は子年、年女になるとのこと。

最近では自分が何才になるのかも分からなくなつて迷う時がある。感じることができない程めまぐるしいのか、それともボーッと過ごしているかである。

私が生まれたのは戦後、戦後とはだくべく切望する者であります。こゝのことにより受益農家はどんなにか心丈夫になることありますよう。とか。終戦から半世紀を経た今、日

本は高度成長期を迎へ、何不自由ない先進国そのものである。しかし、二年前、広島へ行く機会があり、そこで見たものは、原爆の後遺症で今なお苦しんでいる人の姿であった。街並は戦争の面影もないほど復帰しているのに…。

原爆資料館には「八時十五分で止まつた時計」「黒こげの弁当」「皮膚の垂れ下がった子供達」「黒い雨跡の堀」などなど、原爆というものが如何に恐ろしいものであったか物語つ

て今年も何んとか無事に公庫償還金を期限内償還出来ることを願う訳であります。

ていた。

最近読んだ新聞欄に原爆が投下された時八才であった少女がでくわしたのは、日玉がとびだした母の姿、

目の前で倒れ、そのまま死んでしまった兄、その兄を妹と二人で焼いた。

助かった妹も後遺症で悩んで自殺してしまった。残酷な人生に何度も死を考えたとか。しかしこの思いを後世に語り継がないで死ねないと思いつどまつたと言うものであつた。また、私の友達も被爆者の子を持ち、社会人を目の前にして二十二才でこの世を去つた。子を失くした母親の哀しみは、二年たつた今でも正常に保つことができないほど錯乱する時があると言う。

原爆による悲惨な過去が五十年と

人を目の前にして二十二才でこの世を去つた。子を失くした母親の哀しみは、二年たつた今でも正常に保つことができないほど錯乱する時があると言う。

私の友達も被爆者の子を持ち、社会

人を目の前にして二十二才でこの世を去つた。子を失くした母親の哀しみは、二年たつた今でも正常に保つ

ことができないほど錯乱する時があると言う。

原爆による悲惨な過去が五十年と

人を目の前にして二十二才でこの世を去つた。子を失くした母親の哀しみは、二年たつた今でも正常に保つ

ことができないほど錯乱する時があると言う。

九十九パーセント

夏井土地改良区 佐藤せい子

初めてまして、平成七年度より会員になりました。思い返せば、昭和六十一年五月亡き稲葉事務局長の突然の訪問。あれから子供達の成長は確実なものがありますが、私自身職員としての自覚はいつだったのだろう。

本気で仕事に取り組める様になつたのはいつだったのだろうと自問自答している今日この頃です。

当初、「学校時代と同じ気持ちで辞典を開いて仕事が出来るなんて、こんなにうれしいことはないです。」

いう歳月を経ても、いまだに消え去ることなく、深い傷となつて引きつ

がれていることを思い熱いものが込み上げてしまう。

このところ、中国についてフランスでの核実験、今なぜ核実験なのか

考えさせられる。平和に見えるが核の下では平和はありえない。広島の

思い、友達のおもい、考えた時そのことがより鮮明に感じられる。

今なお、苦しんでいる多くの被爆者の方々に、一日でも長く生きて

欲しい、そんな想いでいっぱいです。

それと同時に五体満足でいられる自分に改めてありがたさを感じ、いろいろなことに目を向け、悔いのない人生を送らなければいけないと強く

欲しい、そんな想いでいっぱいです。

それと同時に五体満足でいられる自分に改めてありがたさを感じ、いろいろなことに目を向け、悔いのない人生を送らなければいけないと強く

欲しい、そんな想いでいっぱいです。

それと同時に五体満足でいられる自分に改めてありがたさを感じ、いろいろなことに目を向け、悔いのない人生を送らなければいけないと強く

防災ダム管理

鶴沼川防災ダム連合協議会 星勝俊

福島県施設であつて、ダム管理関係町村は会津高田町、会津本郷町、新鶴村、会津坂下町、北会津村の基に私は会津高田町にある宮川ダム担当であります、去る七月十二日に行われた福島県土地改良団体職員連絡協議会総会の席上二十年勤続表彰をいただきました。

この宮川ダム建設は昭和二十五年度着工、同三十七年度完成であり、今では三十三年が経過しています。長い年月には色々な事が思い起されます。昨年は大干ばつの為、水不足

と理事長にお話をした記憶がありま

す。しかし、事務局長の発病、長期不在、死亡と正に、晴天の霹靂。眠れぬ夜が続きましたが、県、市、役員の方々の温かい指導により抜け出

すことが出来ました。感謝申し上げます。

「九十八、いや九十九パーセント

仕事に満足している」と誇らしげにおっしゃった事務局長の言葉を思

い出します。厳しい農業情勢の中組

会員の皆様どうぞご指導ご鞭撻の

おも近づけたらと、欲ばかり始めている私に、「せいちゃんがんばれ!」

亡き稲葉事務局長の元気な声が聞こえてきそうです。

会員の皆様どうぞご指導ご鞭撻の

程よろしくお願ひ申し上げます。

亡き稲葉事務局長の元気な声が聞こえてきそうです。

会員の皆様どうぞご指導ご鞭撻の

程よろしくお願ひ申し上げます。

合員の方々と手を取り合い、今後の農業農村の姿はいかなるものかを見極め努力したいと思っています。

「九十九パーセント」の満足度に少しだけ近づけたらと、欲ばかり始めた

私は、「せいちゃんがんばれ!」

亡き稲葉事務局長の元気な声が聞こえてきそうです。

会員の皆様どうぞご指導ご鞭撻の

程よろしくお願ひ申し上げます。

そしてダム敷地に設立されている記念碑には土地改良区役員名が深く堀り残されています。勤続二十五年は私にとって長いような短いような年

月に思われます。

これから勤務年数の防災ダム管理を大事に過ごしていきたいと思います。

十年間を振り返つて

柳津町土地改良区 小島貞彦

土地改良事業に携わり、早、十年の月日が過ぎ去りました。

今回、勤続十年の表彰を頂き身にあまる光栄を感じています。

土地改良区に勤務して最初の頃は「土地改良とはどんな仕事なんだらう」と全てが分からぬこと、聞き慣れない用語の連続でした。

例え工事の面では、たん水均平、暗渠排水など。また、換地業務においては、「換地」という言葉から始まって、不換地、特別換地、非農用地などなど。数えればきりがありません。

私は、昭和五十九年四月から主に、団体営ほ場整備事業の工事面および換地業務に携わってきました。平成五年度からは、県営担い手育成基盤整備事業「郷戸地区」を実施しています。当、土地改良区においては、

思いつくままに…

大熊町土地改良区 渡部恵子

「ナニイ……」

突然の原稿依頼でビックリをいたしました。

常には年二回の発行の「むつみ」を他人事のように楽しみながら読ませていただいておりましたが、読んでいただく側の筆者になるとは思つてもみないし、考えてもみませんでした。

この十年間を振り返つて良かったなと思うのは、基盤整備を実施した

地区の組合員から「基盤整備をして農作業が楽になった。道路が広くなつて良かつた。」というような言葉が

聞ける時です。(たまにしかいけれど……)また、仕事を通じて各土

地改良区を皆様はじめ色々な人と知り合いになれるることは一番の宝物だ

と思います。この十年間を一つの節

目として、身を引き締めて今後の事

業を推進してゆきたいと思います。

最後に、会員皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。

特に換地後の登記事務については、法務局に出向いて、ほぼ全地区(十

五地区約八百ヘクタール)を関係す

る方々の協力を得ながら一人で行つた事が特に懐かしく思い出されます。

その間に事務所を二回移転し、昨年十二月は町当局の計らいもあり、役場敷地の一角に単独事務所を建設

していただきやっと落ち着くことが出来るのかと思ひます。

会員の皆様近所にお越しの節には是非お立ち寄り下さい。茶など一服差し上げたいと思ひます。

近年事業量の減少に伴い、職員も現在では二名が出向し、私と技術屋

さんの二名で償還事務と農道整備事業、町単独事業の執行に頑張つてゐる毎日です。

仕事はそのくらいにして、私事に

なりますが、子供が三人おりますが、各自思い思いの道に進み、家を離れております。一時的に寂しい時があ

りましたが、最近では馴れて電話が

来るたびに「お金」の催促でやりとりを繰り返して来ました。

は、地権者と論議、補助事業の実績報告で悩んだり、また償還均のやり

くりに奔走したりと泣いたり、笑つたりを繰り返して来ました。

特に換地後の登記事務については、法務局に出向いて、ほぼ全地区(十

ルをやっておりましたが、寄る年波に勝てなかつたのか？昨年八月下旬に試合中に右膝前十字韌帯を断裂、即入院手術、そしてリハビリと1年経過した現在もいまいち思うようにはならない日々を送っております。今年は？回目の「私のエト」健康

には氣を配り、仕事に趣味にと思うに勝てなかつたのか？昨年八月下旬に試合中に右膝前十字韌帯を断裂、即入院手術、そしてリハビリと1年経過した現在もいまいち思うようにはならない日々を送っております。今年は？回目の「私のエト」健康

思い出をつくるために

大玉土地改良区 渡辺 浩彰

当土地改良区には、安達太良山と阿武隈川を結ぶように流れる『安達太良川』という川があります。私が小学校のころよくこの川へ行き遊びました。川岸にある柳の木に登りクワガタを取りたり、岩の下にいる沢蟹を見つけたり、暑いときには川で泳いだりと楽しい少年時代を過ごしました。

そんな私も今年で二十四才で、二度目の【子年】を迎えます。平成六年四月にここ大玉土地改良区の職員となりました。機関紙「むつみ」からの寄稿依頼を受けたのはもちろん初めてで「年男としての抱負を……」とはお願いされたものの、さて何を書こうかとても悩みました。抱負

には氣を配り、仕事に趣味にと思う存分頑張って見たいと思っていました。思いつくままに取りとめもない事を書きましたが、勤務出来る限り組合員の立場になつて土地改良事業に取り組んで行きたいと考えております。

といつてもたいしたこと書けそうにありませんが、私の思い出をもとに書いてみたいと思います。

改良区に勤務して、最初に苦労したのが「地名」と「組合員名」を覚えることでした。電話などはそのいい例で、電話を受けるたびに「誰が・どこで・何をしたのか？」—チングンカンパン。結局は、局長に替わってもらいため息が出たときもありました。

そんなこんな毎日でしたが、ある日、土地改良区の管理する自然入口の堰へ行く機会がありました。その場所は、冒頭でも述べた『安達太良川』だったのです。十年ぶりということもあり、懐かしい風景を頭

には気を配り、仕事に趣味にと思うに思い浮べながら車で向かいました。

……が、着いたそこは、やはりとうかもちろんというか記憶とは全く異なった姿で、たくさんあつた柳の木も今はすっかりなく絨毯のような芝で覆われ、木の葉の代わりに流れているものはビニールの袋と空き缶ばかり……。しかし、変わってしまつたというさびしさよりも、ここでよく遊んだなあという楽しい思い出のほうが強く心の奥にありました。一度目を閉じれば、あの時の情景がい

今、二十年を回顧して

塩川西部土地改良区 渡辺 秀雄

二十年と一口に言つてもやはり長い年月でした。人の出入りの激しかったこと。その地区が十年の歳月もかかったときは、故人となられた方もありました。竣工を見られなかつた方もおられます。さぞ残念でしょう。何んと言つても、オイルショックがあり、工事面積が半分に削られる予算しかこなかつたときは、地元に対する説明をどのようにしたらよいのか頭を悩ませました。もう一つは、基礎知識の乏しいのにもかかわらず、

つでも頭に浮かびます。大玉土地改良区にお世話になつて二年目の新米職員で自分に何が出来るのかいまだに分かりませんが、『安達太良川』の思い出のように十年、二十年後に、自分はこんなことをしてきた、つらいこともあつたけど嬉しいことはもつともつとあった、そんなたくさんの「思い出」が見つけられるよう頑張っていきたいと思っています。

元の意の通うような仕事をし……。

今、取り組んでいる地区を二十一

世紀の扱い手の方々に喜んでいただ
けるような仕事を残したいです。

が、毎日ほ場整備事業に明け暮れている
日々であり、二十年を振り返る余裕

もなく、今回の原稿依頼にも期日ま
で間に合うかどうか分からぬ状況
でした。

猪苗代町土地改良区 佐 藤 亭

十 年

諺に十年一昔と言う言葉が有りま
すが、土地改良区に勤務して早二十
年が過ぎました。

この度永年勤続職員として表彰さ
れ、何も分からぬままに二十年が
過ぎ、これも皆様方のご協力の賜物
と深く感謝申し上げます。

昭和五十七年に長瀬取水口の法定
水利権の許可をいただき、県営かん
ばい事業も終了し又団体営及び県単
等による水路の改修工事も少なくなつ
てきました。昭和六十二年からは県
営ほ場整備事業の推進に着手し平成
に当たっておりました。

仕事の内容としましては、灌漑期
の水路看守、受益面積に対し水量が
非常に少なく又水路は老朽化し、少
しの雨でも水量の調整をしなければ
ならない状況であり、又各集落の防
火用水にも利用していた事から火災
が発生すれば、消防車よりも早く火
災現場に駆けつけ防火用水の確保等
を実施しておりました。

現在は県営ほ場整備事業一二地区
その内二一世紀型八地区、扱い手型
四地区・土地総事業二地区合計一四
地区を実施中であります。

私の三十年の勤務の中で、昨年の
馬灯のように思い出されます。

取り留めもないことを書きました
が、今後五年位で余裕がもてる仕事
で間に合うかどうか分からぬ状況
でした。

最後に、二十年勤めさせていただ
いたのも組合員・或いは職場の仲間
のおかげと心から感謝申し上げ締め
くくりとさせていただきます。

安積疏水土地改良区 吉 田 栄 一

異状渴水について

光陰矢のごとしと申しますが、早
いもので今年で勤続三十年を迎えた
しました。この間、病気、交通事故等に
もあわずに勤務できたことに、感謝
しているところであります。

当初は、新安積土地改良区に勤務、
昭和四十六年安積疏水と三地区一体
化に伴い、郡山市までの車通勤が始
まりました。昭和五十九年に今の水
利課勤務を命ぜられましたが、疏水
管内の二市三町一村の地理や施設も
分からず、水利課職員の上司、同僚
に大迷惑をかけたことなどが、走

馬灯のように思い出されます。

今までの業務の内容を振り返りな
がら書いて見ましたが、現在は昼も
夜もほ場整備事業に明け暮れている
姿を、初心に戻り考えて見たいと思
います。

今までの業務の内容を振り返りな
がら書いて見ましたが、現在は昼も
夜もほ場整備事業に明け暮れている
姿を、初心に戻り考えて見たいと思
います。

温泉にでも入りながら過去を振り返
り土地改良区の職員としてあるべき
姿を、初心に戻り考えて見たいと思
います。

異状渴水は印象深く残っている一つ
であります。この異状渴水を簡単に
まとめたものが別紙のグラフであり
ます。このグラフを見れば気温、雨
量とも平均値と大きな差があること
が分かります。六月から八月の雨量
は平均値が、四五二ミリであります
が、昨年はこの間二三五ミリの雨量
しか記録されず、平均値の五十%で
あります。特に全国各地で取水、
給水制限が出されている頃の七月二
十二日から八月十六日の二十八日間
の雨量は僅か八ミリで気温は連日最
高気温が三十五度を越え、出穂開化
期を迎える内流末の受益者からは、

水不足の電話が殺到し、その対応に苦慮いたしました。

観測史上まれに見る異状渇水である本区は、枯渴、立ちがれなどの被害もなく対応出来ました。先人の残した偉業に敬服するばかりであります。

おかげ様で秋の収穫期には大豊作を迎えることが出来、大変喜ばしく

思います。また、渇水のため東奔西走した苦労が報いられ、充実したかんがい期間でもありました。しかし近年農業を取りまく情勢は厳しいものがあります。米価の引き下げ、後継者不足等々、問題が山積しております。農業関係に携わる者の一人として、日本の農業が魅力ある農業に変わらるような国の政策を期待しております。

鳥がとまるとき、静の芙蓉に相対して鳥がとまるとき、静の芙蓉に相対して色と声で動きを与える。シジュウカラは、そんな葉を逆さになつたり、幹をよじ登つたり、ぼろぼろになつた葉を噛で引きちぎつたりと、忙しく動きまわる。その様を見続けていると、やがて丸まつた葉から虫を探し出して、満足そうに飲み込んでしまふのである。

我が家では、庭に殺虫剤を撒かないと脱皮し、あざやかな緑色になつたアゲハチョウのサナギをべろっと食べちゃうこと平氣でしてしまふのです。こんな情景は、農村において極自然に見られたのですが、昭和三十年代より農村の近代化と労働力の節減のため、農地の基盤整備を実施し土川に住む小魚や虫たちはどこかに追いやられて、農村の自然の中からいつの間にか消えた。農村の自然が多く残る中山間地も、ウルグアイ・ラウンドの「地域活性化対策」として位置づけられ、就業機会の確保、営農条件の改善のために事業がすすめられている。環境の保全にも十分に配慮し小川も小魚や、ほたるの棲める環境を保ち乍ら山間の活力ある地域をめざし、さらには定住の促進を図り、鎮守の森の祭りは賑やかにしたいものです。

圖

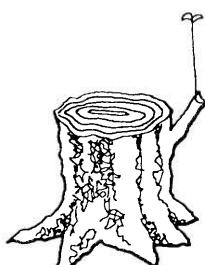
然

土地連 河 内 英 治

暑かった今年の夏も、九月ともなれば、急に涼しくなった。我が家は小さな雑木林の様な庭にも、秋は訪れた。葉は虫のため、傷つきぼろぼろになり色も失っている。自然の山にある木々と違つて剪定した庭の木は、どうも貧相でつらそうに見えてならない。その中に、背丈一米程の山椒の木の葉も夏の頃の精悍さはなく、無理して緑を残そと弱くなつた秋の陽にがんばっている。

その葉には、黒褐色に白い線の入つた十五耗程になつた、五匹のアゲハチョウの幼虫がいる。夏の間には、

なん匹ものアゲハチョウが来てタマゴを生んではいくが、まつていましとばかりにアシナガバチが来て、えさに運んでしまう。夏の暑さもすきハチの活動がとまつた時期に生まれたものであろう、小さな身体に触ると“俺は強いんだぞ”と言わんばかりに生意氣にも小さな肉角を出す。三十年前までは、秋には一面黄金色の稻穂の垂れる地であった。いつの間にか周辺の水田は消え、雑多な住宅地となつた。そして小さな庭には、アマガエル・トカゲ・コオロギは、これから羽化するところを写真でも撮ろうかと大切にしている、やつ



編集子

会員の皆様あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新年の抱負を胸に抱きながら正月三ヶ日をお過ごしになられたことと存ります。

中でも、子年の三十三名の方々は、"今年こそ!"、"今年は!"などと希望を持ち新年をスタートしたことと存ります。

また、この度の機関紙「むつみ」に対する寄稿を十一名の方からお寄せ頂き、誠に有難うございました。

今後も「むつみ」を各会員皆様の思い出紙、また意見交換紙等にしていただければ幸いに存じます。

新しい会員名簿を頂戴しましたので会員の皆様の交流にご活用していただきたいと思います。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻の程お願いいたします。

一月十六日事務局

“土地改良事業に関する業務は 土地連がお手伝い”

土地改良事業を行う会員の協同組織である県土地連は、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営の確保及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。

1. 技術的援助

- (1) 測量調査設計 (2) 実施・変更・出来型設計及び施工管理 (3) 確定測量
- (4) 換地計画及び登記申請書作成等の受託

2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談及び農業基盤整備資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
 - ・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換地センター
 - ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農村総合整備センター
 - ・農村総合整備事業の啓蒙普及及び技術の向上、指導

3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務 (2) 換地業務設計及び経費積算 (3) 確定測量業務
- (4) 水文 (5) 水収支 (6) 土地改良区の賦課業務 (7) 各種土量計算



福島県土地改良事業団体連合会

会長 佐藤 栄佐久

〒 960 福島市南中央三丁目36番地
TEL 福島 (0245) 35-0371 (代表)
FAX 福島 (0245) 35-1200